

故青山さん、加藤さん、打田さん、青木さん制作



永年保存作品に選ばれた(左から)故青山貴秀さん、加藤亮太郎さん、打田翠さん、青木岳文さんの作品＝多治見市虎渓山町、とうしん学びの丘エール

陶芸4作品 永年保存

東濃信用金庫の「美濃陶芸作品永年保存事業」の本年度選定作品が22日発表され、故青山貴秀さん(中津川市蛭川)、加藤亮太郎さん(47)＝多治見市市之倉町、打田翠さん(38)＝瑞浪市日吉町、青木岳文さん(30)＝土岐市肥田町の4人の作品が選ばれた。多治見市虎渓山町のとうしん学びの丘エールで同日、発表があった。(箕浦由美子)

青山さんの「緑彩容」は代表作。2011年の日展入選作品で、手びねりの器形に複数の灰釉を重ねている。昨年宝の祖父卓男さんが築いた49歳で早世した青山さんの穴窯と、自身が築いた穴窯

でそれぞれ焼成し「伝統を受け継ぎながらも、作り手がしっかりそこにある」(同事業推進委員会の唐澤昌宏推進委員)とされた。

打田さんの「ランドスケープ」は金属を混ぜた土を手びねりで柔らかなフォルムに成形し、もみ殻に埋めて炭化焼成させ、独特の景色を追求している。

青木さんの「シンダー」は泥しようにスポイトで粒状に積み上げた作品。国際陶磁器フェスティバル美濃坂崎重雄セラミックス賞を受賞し「偶然に生まれた表現をいかに必然に変えるかが大切」(同)と評価された。

同事業は毎年、永年保存作品を推進委員会が選び、同金庫が買い上げている。本年度4点が加わり、計112点になった。来年1月からとうしん美濃陶芸美術館で展示される。

東濃信金事業、計112点に